

事業名	第2回 多職種連携研修 ～集う・繋がる・語り合う～		
実施期間	平成29年2月5日(日) 13:30～16:30		
実施団体	宮崎県精神保健福祉士会 (宮崎県障がい者相談支援事業連絡協議会、日本精神看護協会宮崎支部、宮崎県作業療法士会、宮崎県精神保健福祉センターとの共催にて実施。)		
実施地域 開催場所	宮崎県総合保健センター 5階大研修室	参加者合計 78名	看護師、作業療法士、保健師、精神保健福祉士、相談支援専門員、行政職員 その他
事業内容	<p><u>(1) 準備期間</u> 平成28年6月～平成29年2月 多職種による研修企画実行委員会を結成。月1回、精神保健福祉センターにて開催。</p> <p><u>(2) 内容</u> 昨年度の2月に、初の試みとして開催した「多職種連携研修」に継続する形で、多職種・官民共同で「集う・繋がる・語り合う」をテーマで開催。主たる目的は地域移行支援を推進していくことであり、そのために多職種での連携を強化し、研修での学びを実践に繋げていくために、下記の流れにおいて、多職種による各グループでのディスカッションを行った。</p> <p>① (趣旨説明) 宮崎大学青石氏より、昨年の研修会のアンケート報告を元に今回の研修会の趣旨説明及び、アンケート結果から見える各職種の特徴、どの職種も多職種での交流を求めていることが明らかになったことや、多職種による研修会の有効性が示された。</p> <p>② (グループワーク) 1つの事例に基づき、多職種でのディスカッション(多職種で編成されたグループによるディスカッションを行った。) 流れとしては、事例の概要の説明⇒グループディスカッション⇒事例の実際の発表⇒グループ発表。事例の概要を事例提供者3名(看護師、精神保健福祉士、相談支援専門員)が情報提供に基づき、「ご本人の退院したい、をどのようにかなえていくか」について各グループで意見を出し合った。各グループにファシリテーターが付き、グループをリードしてもらったこともあったが、活発な意見交換がされた。</p> <p>③ グループ発表とまとめ(各団体代表の挨拶及び、宮崎県障がい福祉課より、宮崎県自立支援協議会に地域移行に関しても協議出来る部会が設置されたことを宣伝いただいた)</p> <p><u>(3) 事業により得られた効果</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・多職種、多団体(日精看、OT協会、PSW協会、相談支援専門員協会、ピア、行政)による研修会を昨年に引き続き、継続して開催出来たこと。 ・多職種による研修企画チームが次年度も継続することが決定したこと。 ・事例について多職種により少人数でディスカッションを行ったことにより、地域移行について基礎的な理解が深まり、多くの専門職の意欲喚起につながった。 ・通常業務ではなかなか出来ない、多職種との意見交換、交流そのものが参加者に好評であり、その意義を感じてもらうことが出来た。 ・意欲喚起をされただけでなく、「自分に何が出来るか」を各自に持ち帰ってもらえた。 <p>(報告者 宮崎県精神保健福祉士会 理事 山口 麻衣子)</p>		

(添付資料) アンケート結果